

甲斐駒ヶ岳

山岳修行者の拠点

花崗岩でできたピラミッド型の頂上を持つこの山は、北岳の北約 6 キロメートルに位置します。

名前の最初の音節（カイ）は封建時代の山梨県のかつての名前である甲斐国を指し、「馬」を意味するコマは山と馬が似ていることを示唆しています。

横手駒ヶ岳神社から黒戸尾根に沿って標高 2,967 メートルの山頂に至るルートは、1816 年に初めて踏破され、その後甲斐駒ヶ岳は修験道の修行者にとって人気の巡礼地となりました。第二次世界大戦が始まるまでは、白装束の巡礼者たちが鐘を振りながら、神道の祓いの言葉や仏教の般若心経を唱えながら登っていました。このルートには記念碑が点在しており、頂上には小さな摂社（奥宮）があります。過去に比べれば数をはるかに少ないとはいえ、今日でも登山する巡礼者がいます。

横手駒ヶ岳神社の標高は 770 メートルなので、山頂までの標高差は 2,200 メートル弱となります。この登山は北アルプス烏帽子岳のブナ立尾根および谷川岳西黒尾根と並んで日本三大急登の一つに数えられています。神社から山頂を通り北沢峠まで下る全行程はわずか

12 キロメートルですが、はしごや鎖、急な岩場が多く、1 日で完登するのは難しいため、2 日
に分けて登ることをお勧めします。